

武蔵野市第六期長期計画・調整計画策定委員会

関係団体意見交換会

(緑・環境、都市基盤、行財政)

■日時 令和5年2月19日(日) 午後3時20分～午後4時56分

■場所 武蔵野市役所802会議室

出席委員：渡邊委員長、岡部副委員長、久留委員、鈴木委員、中村委員、箕輪委員、

吉田委員、伊藤委員、恩田委員

欠席委員：木下委員、古賀委員

事務局が、写真撮影、討議要綱、意見交換会の趣旨と進行、意見の取り扱い及び今後のスケジュールについて説明し、策定委員会委員の自己紹介の後、意見交換を行った。

【ジモッピーネット】 1点目は、16 ページ、4)「緑・環境」の最終行に「魅力ある整備を推進している」と書かれているが、「また、武蔵野の雑木林を将来に引き継ぐため、ナラ枯れ対策を徹底するとともに、再生にも着手した」を加えていただきたい。理由は、武蔵野を冠した武蔵野市には、武蔵野の雑木林を将来にわたって適切に維持していく使命がある。そのために武蔵野市に全力で取り組んでいただいたので、ぜひこれは高く評価していただきたい。

2点目は、33 ページ枠内の3、「『緑の憲章』の基本理念を継承し」と書いているが、これは随分昔につくったもので、今、時代が変わっている。できれば、例えば「この憲章の基本理念を継承するとともに、生物多様性等現代的な課題を踏まえて改定し」としていただきたい。

3番目、基本政策3の3)の第2段落と第3段落の間に、「生物多様性基本方針に基づき、公園緑地等の緑を生物多様性の観点から保全する。特にわずかに残された雑木林については、生物多様性及び歴史文化の継承の観点から、持続可能な維持管理手法を定着させる」を入れていただきたい。生物多様性基本方針に基づくということがあまり出てないと、ナラ枯れによって武蔵野の雑木林が今かなり危機に瀕しているの、このあたりをきちんと入れていただきたい。

今回の討議要綱の緑・環境分野はどうも人間のことが中心に書かれている気がする。生

物多様性のこととか歴史的な背景がとても弱い。今十分にできてないと思うので、ぜひ入れていただきたい。

【副委員長】 今ご指摘いただいたことは、第六期長期計画の91ページ「緑と水のネットワークの推進」に書き込んでいる。討議要綱にないから、必ずしも変更になったというわけではない。

ただ、今おっしゃったことはまさにそのとおりで、世代によって、緑や環境に対する価値観が変わってきている。その辺を含めて、生物多様性は頑張って書き込んでいく。むしろ、さらに書き込むべきは、六長の次の七長ではないかと思っている。

【エコ re ゴート運営協議会】 1点目は、ただ単に緑があればいいということではない。エコ re ゴートが担当して、気候市民会議を開催しているが、その成果を見ると、単に羅列で、今の地球環境問題に関して、どういうふうに相互依存しているか、そのあたりがほとんど読み切れない。第六期長期計画を読んで、第六期長期計画策定委員会の委員長からも話を伺ったが、そのあたりが読み取れない。縦割り行政をどうつないでいくかということをしていただきたい。

2点目、武蔵野市の市民はとても勉強している。エコ re ゴートも、啓発施設として担当している。市民の教育、学びをきちんと書き込んでいただきたい。市民を置いてきぼりにせず、情報をきちんと出すことが協働の基本原則と市長も言われているが、いつの間にかエコ re ゴートはワクチン接種会場と倉庫と貸出業みたいになっている。どういうふうに施策をつないでいくか。学びの場をきちんと確保して、質のアップに貢献することを書き込んでいただきたい。

【委員長】 まず1点目は、どうしても行政ごとに分野があったり、ひもづいている税金が違ったり、それぞれの財源が違ったりして、縦割りにならざるを得ない部分がある。我々は、個別計画がつながっていくように、横串を刺すように、施策の重要さを意識しながら議論をしているつもりだ。ただ、それがなかなか見えにくいというご批判は全く妥当で、個別の関連であるとか、大きい理念のあり方については、より見やすいように努力をしていきたい。

市民の学びについて、市民側も学んでいかないと、あるいは学ぶ環境がないと、次の成長ができないし、市民活動の循環が起きない。また、市民活動の協働のためには情報共有が必要である。どのような形で書き込みができるかを考えていきたい。

エコレポートをワクチン会場に使ったということ、とにかく大変だったので、使えるところは全部使ったという状況だと思うが、このあたりも事前情報が必要だったのかもしれない。こういったあたりも含めて、どのように市民の方々と情報共有していくのか、考えていきたい。

【武蔵野緑町パークタウン自治会】 武蔵野市内でも、コロナ禍にあって、住宅に大変困窮した方々がいると思うし、令和2年、3年にわたって、二億数千万円の住宅確保給付金が出されていると思うが、私たちがセーフティネット住宅について住宅対策課にお伺いしたときには、そういった情報が全く共有されてなかった。住まいに困窮する方々が、どこに、どのくらいいて、どういう状況なのか、市の庁舎の中で共有されてなかったけれども、やっと居住支援協議会ができて、ほっとしている。

私たちのUR住宅には、子育て世帯がたくさん入っているが、一方で、民間では入れてもらえない、80代、90代の世帯の方々がどんどん入ってきて、すぐに包括支援センターのお世話になるという状況も一方である。お一人が施設に入る、入院となると、2倍の家賃を払わなければいけない。家賃支払いが困難になる方への政策をお願いしたい。

防災の点では、自主防災組織が増えているという報告にはなっているけれども、数ではなくて、市の方が地域に出て、どういう課題があって、どういうふうにしたら強化が図れるのかをしっかりと捉えて、連携していただきたい。多摩の各市と比べても、具体的な物資、金銭的な支援も大変少ないのではないかと。個別計画でも、なかなか市民の活動が見えてこない。

【A委員】 都市基盤分野で住宅政策をとっているのは、住宅困窮者に対する市営住宅など、インフラ整備の目的が福祉的なものになっている。そちらと連携して協議することがまず必要で、その辺は整理したい。

【委員長】 高齢者の場合、なかなか家を借りにくいために、比較的入りやすいUR等にどんどん集中していく傾向がある。そのことに対する生活支援のあり方、一定のところだけに家賃補助ができるか、いろんな問題があるので、持ち帰って考えさせていただきたい。

自主防災組織について、不勉強で、他の市区町村と比べて支援のあり方がどこまで少ないかといった点については改めて確認し、検討したい。確かに自主防災組織は皆様のボランティアな参加によって機能しており、どのような支援や補助あるいは評価ができるのか、まだまだ課題があることはご指摘をいただいている。私たちが議論して、書き込みできる

部分があるかを検討したい。

【武蔵野の森を育てる会】 討議要綱の36ページの1「個性あふれる魅力的な地域のまちづくり」の最後に、「武蔵野市景観ガイドラインに基づき、良好な景観形成等を図る」と書いてあるが、37ページの基本施策1「個性あふれる魅力的な地域のまちづくり」の2の表題が「魅力的な景観の保全と展開」という表現になっている。「景観の展開」という言葉はあまり使わないので、前段と同じように「景観の形成」にしていただきたい。

2つ目、今の37ページの右側の上から「まちづくり条例に基づく」云々とあり、市民、事業者の意識向上を図ることを目的にしているが、意識向上だけでは景観形成が進まないなので、「意識向上を図りつつ、景観ガイドラインに基づく景観誘導を着実に進める」という表現に変えていただきたい。

3つ目、37ページの下から4行目あたり、「重要な要素である道路、公園」云々とあるが、重要な要素はこれだけではなく、河川とか水路とか街並みとか、さらに屋外広告物など景観を低下させる要素はたくさんある。こういったものも含めて、景観形成をきちんと進めるという表現に変えていただきたい。

【A委員】 「景観の展開」という言葉は意味不明なので、持ち帰って検討する。

意識向上だけではだめだというのは、おっしゃるとおりで、景観の向上を図ることが目的だから、その辺についても検討したい。景観構成要素にはいろんな要素があって、屋外工作物も確かに景観条例で規制する対象でもあるが、ほかの景観構成要素をどう捉えるか、修辞上どうできるかも含めて検討したい。

【委員長】 屋外広告については、たしか六長で、どういったものができるかの検討をすると書いたので、それは引き続きやっていく。民間との関連もあるので、難しい部分もあるが、実効的な方法、かつ、民間事業者の方々もある程度納得いただける方法を模索することが重要なので、引き続き六長以降の継続という形で考えていきたい。

【武蔵野の森を育てる会】 境山野緑地には、独歩の森を含めた、武蔵野らしい緑地がある。そこは4年前に1度、若い雑木林を試行的に皆伐更新した。その間に、切り株から始まって、原っぱになって、木が伸びて、今までになかったような野鳥とか昆虫とか、生き物が次々に入ってきた。広がって明るくなったから、近くの小学生、中学生も遊んだり、授業に来たり、非常に有効に活用されている。

その隣に独歩の森という、前回の萌芽更新からほぼ 80 年たった古い雑木林がある。残念ながら 3 年くらい前からナラ枯れして、去年伐採して、今、実を植えて再生中だ。

六期の計画がそのまま継続されているという話だったが、生物多様性基本方針とか、雑木林とか屋敷林という言葉がなかった。中にうまくそういう言葉を入れていただきたい。

この辺のことはまだ道半ばで、せっかく、そういった効果が出てきたので、ぜひ明記して継続していただきたい。雑木林はほかにも幾つかあるので、そちらのほうにも同じようなやり方を広げていくのはとても大事なことだ。更新を定期的に行うことがポイントになってくるので、ぜひお願いしたい。

【副委員長】 第六期長期計画にはしっかり雑木林が書かれている。重複する形になるけれども、当然のように書き込むように頑張りたい。

緑・環境分野は岩盤政策と言われながらも、それこそ市民の皆様から、緑と水のネットワークが大事なんだとか、雑木林という言葉が大事なんだというのを、むしろこちら側に打ち込んでいただいて、それを反映させる形で施策が組まれて、少しずつよくなっていく、これがまさにこの会議体のあるべき姿なので、引き続きよろしくお願いしたい。

【A委員】 いろんな知識は増えているので、科学的情報に基づいて行政も支援してくれるように、私は個人的には市にお願いしたい。

【委員長】 市民活動と、研究レベルの活動と、様々なものが蓄積していくのは非常によい循環なので、ぜひこういったものが継続できればと思う。

【ジモッピーネット】 38 ページの 1 行目の「質の高い緑」という文言は何を指しているのか。緑は命を育む基盤で、緑がないところに虫もいないし、いろんな小動物も、鳥も、餌がなくなってしまう。私たち人間が生きていけなくなってしまうのだから、本当に緑は大事だ。緑にもいろいろな用途があって、いつも同一の基準では言えないが、質の高い緑というからには、命に直結した生物多様性の高い緑と私は思う。でも、ここで言われていることは、ちょっと違うような気がする。樹形は自然な形にしようとか、花とか庭木とか沿道の景観を形成している質の高い緑は、生物多様性の高い緑とは違う話だ。用途に沿った緑ということは私もいいと思うが、表現について、少し検討していただきたい。

【A委員】 緑の質というのはいろんな意味があるので、その辺をどう表現するか。一番キーになるのは、現代的な意味では生物多様性ということである。今まではどちらかというと視覚的な美しさ、整列的美しさみたいな形で緑の質と言われていた。それも、最初は

緑であればいいということだった。量からちょっと視点が進んだからこそ、そういう話になっているので、現代的にもっと進むと、質の中にも多様性があると。学校にビオトープをつくったり、雑木林を更新したりすることも、そういう行為の中に含まれていると解釈できる。

【委員長】 確かにここは沿道景観をメインで書かれている部分なので、どういう表現ができるか、持ち帰って考えたい。確かに質の高いというのは非常に多義的な言葉でもあるので、ご指摘を踏まえて皆さんと議論したい。

【マイボトルマイカップキャンペーン武蔵野市民の会】 六長の調整計画は全体的によくできている。4つほど、お話ししたい。

1つは、2050年ゼロカーボンシティの表明とあるが、これが実現可能なのか、どのようなプロセスを踏むのかとかいったことがわかりにくい。少し消極的に感じた。環境問題に関しては、ここ数年で世界的にも緊迫度が増しているなので、このようなタイミングで積極的な姿勢を打ち出してほしい。

2点目は、エコ re ゾート、気候市民会議、環境フェスタなどの、市民意識向上とか啓発とかきっかけづくりとか、そういった取組みはとても高く評価をしているが、自治体として具体的にどのようなアクションをするのかが見えにくい。市民の活動プラスアルファで自治体としてのリーダーシップをもう少し感じたいところだ。

3点目は、プラスチックごみのことに関しても消極的に感じている。例えばお店でのペットボトル自動回収機とか、民間との連携も他自治体はやっている。積極的な行動、動きを期待したい。

4点目は、東京都との連携だ。各市民団体の皆さんは、意識高く、いろんな行動をしている。公が一步踏み出せば、皆さんがぐっと動けるところもある。横の連携がうまくできるようなアクションを期待したい。

【副委員長】 ゼロカーボンを含めた環境調和型、持続型社会への取組みは当然行うべきで、武蔵野市ははっきり言ってそう積極的ではないにしても、取り組んでいるという理解である。ただ、ご理解いただきたい点は、無理やりゼロカーボンを目指しても、武蔵野市の中だけがゼロカーボンになるだけであって、結局、外部要因が外に押し出されるだけである。

まさに武蔵野市は、エコ re ゾートを環境啓発施設の拠点とすると声高に書かれている。

そのための環境団体の交流の場とか、啓発の取組みを進めていくことは一丁目一番地でやるべきことである。

こういう仕組みはつくってあげるよというだけではなく、自治体の方々のリーダーシップはどうするかという厳しい声があった。それは僕にはお答えできない。ただ、それはやるべきである。

プラごみを減らすことは、もちろん市民レベルでは絶対やっていくべき課題だけれども、それを市だけでやっていたら、結局しわ寄せが外に出ていくだけなので、持ち帰って検討したい。

【委員長】 都とか市民団体との横の連携もとても重要で、もともと第六期長期計画でも、この分野に限らず、ありとあらゆる分野で他との連携、例えば近隣自治体であるとか都あるいは国との連携も重要であることはうたっている。ただ、カウンターパートもあるので、どこができるかということは考えながら、連携を常に意識していくという発想はとても重要なので、策定委員会に持ち帰って、しっかりと議論したい。

【B委員】 行政体として、環境に対してどう取り組むかという姿勢を見せていかなければいけないと考えている。気候市民会議等をつなぎながら、その意識醸成とともに、いただいたいろいろな考え方、アイデアを持ち寄ってプランにつなげていきたいと、今検討している最中である。

【委員長】 このあたりは、策定委員会ではまだ議論が足りてない部分もある。ほかにもインセンティブ付与するかとか、いろんな可能性がある。いいアイデアがあれば、ぜひお寄せいただきたい。

【A委員】 世界の動向を国が受けて、その中の東京都、それから東京都の中の武蔵野市という段階があるので、その中での事業者の責任の範囲はあると思う。CO₂の排出量で言うと、市の事業者としての排出量は年間1万トンというレベルだけれども、石炭火力発電所は1日で1万トンである。そういうことを市民が学ぶことがまず大事で、どういう生活をしたらいいのかということ振り返る形の教育が大事である。

エコ re ゴートはごみ清掃工場の横にあるので、ごみの捨て方、プラごみの処理の仕方を市民にもっと啓発していくべきで、SDGsとの関係で、どういう生活パターンをとったらいいのかということ官民で考えるきっかけをつくっていく活動になる。

【TEAM299】 2019年の意見交換会でアニマルウェルフェアについて質問し、その後、第

六期長期計画には動物のことを入れていただいた。愛護動物の生命を尊重し、適切な飼育指導や虐待防止の相談について、関係機関と協力して取り組む。それともう一つ、外来生物に対する感染症の拡大や動物虐待など、生活環境の変化に伴う新たな問題を的確に捉え、関係機関と連携して云々となっているが、「関係機関」が何を指しているのかわからない。行政機関だけではなく、武蔵野市は市民とか市民団体と協働してとなっているので、そこに市民団体を入れることも検討していただきたい。

17 ページの「主な感染症対策」に、コロナももともとは動物由来の感染症なので、「人獣共通感染症に関する対策」という文章を入れていただきたい。

35 ページの基本施策5の最後に「福祉的支援も視野に」という文章が入っている。今、世界的に、動物のことを動物だけと捉えず、人の問題として総合的に捉えるワンヘルスという考え方が主流になって、自治体として取り上げるところもふえている。文章の中に「ワンヘルス」という言葉を入れていただきたい。

【副委員長】 今、ご指摘いただいたことは、基本、また頑張って書き込んでいこうと思っているが、伺っていてわからなかったのは、ワンヘルスという概念は討議要綱に書き込むべきことなのか。

【TEAM299】 ワンヘルスの考え方は、動物のことを動物のことだけとして捉えず、人が飼っている動物の場合、人のメンタルとか生活の部分に関わってくる。例えば多頭飼育崩壊は、人のメンタルの部分の福祉のサポートがないと、その動物も助けられない。つまり、包括的に考えないと、問題解決には至らない。人の生活と動物の生活はリンクしていて、1つとして考えるべきだという概念だ。

【副委員長】 動物愛護の観点は頑張ってここに書き込んだので、さらに進化していくように頑張りたい。

【C委員】 基本的に動物に対しては、我が国の施策大綱は大きく分かれている。家畜は農水省、動物園の動物は文科省、これが肉に変わると厚労省で、省庁で動物といっても、関わり方は難しいので、アニマルウェルフェアについての議論は非常に裾野が広い。

ご指摘のとおり、感染源は動物発が多い。ワクチンなどの開発においても、動物実験をする。動物実験で使う動物もいる。こういうことまで含めていくと、人の生活と動物は切っても切れない。委員会では、問題意識としては常に持っているが、どこまで書き込めるかというのは、そのときの情勢にもよるので、検討させていただきたい。

【A委員】 動物を守ることは人を守ることだということは防災計画にも入れて、今、東

京都では、震災時にペットを一時的に避難させる場所を各自治体に求めているようである。東京都もそういう意識でいる。

【第二中学校 PTA】 雑木林の話で、今回、ナラ枯れや北側の皆伐更新を経験したことで、昔の人たちが雑木林を管理していた方法がいかにか理にかなっていたかということがよくわかった。こんなおもしろいことを、やったきりで流したら、もったいない。これを生涯学習の学びにつなげられないか。例えばふるさと歴史館だったり、エコ re ゴートで学べるようなものにしていけば、生きたフィールドもあるし、学びとしてもある。両方一遍にやることができて、なかなかおもしろい環境が武蔵野市にできる。

武蔵野市のホームページは、昨年だか、新しくなって、ユニバーサルデザインになったのはいいけれども、結局ディレクトリ型から抜けてない。20～30年前の構造で、せめてグーグル並みの、キーワードを入れたら、自分が欲しいものに1ページ目か2ページ目かでたどり着けるようなものになってないといけない。

【副委員長】 短い時間で考えてみた。「わずかに残された雑木林については、生物多様性及び歴史文化の継承の観点から、持続可能な維持管理手法を定着させる」「一連の取り組みを市民の教育や学びに活用する」、この理解でいいか。書き込めるかどうかは検討する。

【A委員】 国木田独歩が『武蔵野』で言っていた雑木林は、実は渋谷周辺の話で、もうそこには雑木林がなくて、武蔵野市に残されている雑木林は文字どおりの貴重な存在である。ただそれは、昔の、20年ごとに伐採していた循環的農業の中の雑木林とは切り離されているので、その循環を人為的につくらなければいけない。子どもの教育と絡めて、一種、つくられた循環をつくるのは可能だと思うので、ぜひ皆さんが、エコ re ゴートとかふるさと歴史館とか使って、市民にアピールするようなプレゼンをやっていたらうれしい。

【D委員】 私どもが今考えている方針は、44ページの基本施策4の右上、「ICTの活用による市民サービスと業務生産性の向上」に全体的な話を書いている。下から3行目の「全庁横断的なDX推進に取り組む。あわせて、新たな行政サービスについても研究する」と、課題は認識していて、それに対してどういう手を打つのか、調整計画では、まずここで一回位置づけをしている。

一方で、45ページの基本施策5の1)、「課題に的確に対応できる人材の確保と育成の

強化」は、ICT、DXの世界の進捗はあまりにも早く、行政体だけで追いかけていくには物すごく非効率である。5年前は想像できなかったことが今どんどん行われてきている。となると、行政体の中でデジタルの専門家等育成するのはちょっと実現性がない。市民にも専門家がたくさんいるから、そういう人たちにどんどん協力いただき、場合によっては有償で役務を提供していただくこともやっていかななくてはいけないのではないだろうかという考え方でまとめている。

ただこれは言うはやすしで、行政体が準委任の契約をそんな簡単に出せるのかとか、随意契約でやれるのか。突破しなければならない壁はたくさんある。しかし、行政体の自前主義はちょっと無理なので、優秀な市民の方にも協力いただいて、それもボランティアではなく、ちゃんとした役務の提供という形で、市民と行政と民間企業のいい協働関係をつくっていきましょうというのが、今回の調整計画で組み込んできた概念である。

【委員長】 Webページは、行政体なので、どうしても縦割り行政的な、部署ごとの管理とか、そういったものも入っている。ただ、完全にフラットにしちゃうと、それが使いやすいかということ、慣れている人は使いやすいけど、慣れてない人は意外に使いにくいこともある。市にもっとよくしてくれと言われても、市は、よくって何だろうになってしまうので、具体的なアイデア等お寄せいただきながら、では実装するにはどうすればいいのかと市民の皆さんと一緒に考えていく、そういうことができるといい協働なのかなと、個人的には思っている。

【Green グリーン】 緑について、武蔵野はとても力を入れて、皆様の緑を愛する気持ちもとても強いものだと思う。武蔵野らしさとかシビックプライド、文化・歴史の継承とか、質の高い緑をと言われているけれども、そろそろもっと具体的な、例えば遺伝子を継承する緑の保全を考えていったらどうかということをご提案したい。

吉祥寺図書館のシンボルツリーのケヤキの木は、江戸時代から続く旧河田家のケヤキだ。そのケヤキはとても大切なので、図書館ができるときに、とても大変な思いをして5メートルくらいわざわざ移動して、ケヤキを保全したという経緯がある。そのケヤキの木の実生が、うちに飛んできて根づいた。その実生がある程度大きくなったので、緑のまち推進課に、このケヤキを使って、武蔵野の緑を育てていただけませんかと言ったところ、何の音沙汰もなく、全く興味を示してもらえない。

例えば三鷹市では、ムラサキを育てている。三鷹の駅前の三鷹の森構想も、農家さんと

連携して、三鷹のどんぐりをもう既に育て始めている。お隣の三鷹市ではされているのに、武蔵野はそういうところが遅れていると感じるので、ぜひ武蔵野の緑の遺伝子の継承を考えていただきたい。

【副委員長】 例えば遺伝子を継承するために、ケヤキの苗木をどこかの林で育てるとい
うのが、その活動の中でできるのか。

【ジモッピーネット】 我々も、雑木林ならいいということではなくて、独歩の森がなぜ
大事かという、江戸時代からの遺伝子が脈々と続いているので、この遺伝子をとにかく
継承したいという思いでやっている。

ケヤキの遺伝子も、とても大事なことだ。境山野緑地の独歩の森の脇の駐車場跡地はまだ
苗床をつくれる余地がある。どこかに武蔵野市の植物の遺伝子を守るための苗床みたい
なものをつくって、その土も、できるだけ昔から武蔵野にある土を使いながらやれば、継
承できる。ぜひそれは取り組んでいただきたい。私も大賛成だ。

【副委員長】 あとは施策を打って、予算措置すれば進むということだ。

【A委員】 今の話はすごいレベルの高い話で、今、侵略的な外来種が問題にされている
が、実は国内外来種という概念がある。だから、山野緑地では、国内外来種じゃない、地
場のクヌギ、コナラにこだわって、実生を育てて植えつけている。ケヤキなら何でもいい
というわけではなくて、屋敷林としての構成種としては、この辺ではケヤキが一番重要な
木なので、ケヤキをシンボルにするというのはすごくいい話だ。

【吉西福祉の会ひろばひよこ】 今回の資料の中で、電柱を埋めることが景観のところで
出てきている。それ以外のことでは実現不可能なのかととても残念に思う。

私は、阪神大震災の後で今の家を建てたので、地震に強い家にした。ところが、自分の
住まいの近くに電柱があり、電柱が倒れることは防ぎようがないと恐れを感じた。自分が
死ぬまでの間に実現するかどうかはわからないが、市に対して希望というか提言をした覚
えがある。武蔵境の通りで電柱がなくなったりしているので、少しずつ希望はあると思っ
ていたが、今回も、実際のことより景観だというのが残念だ。

【委員長】 電柱は 37 ページの景観のところに書いてあるが、実は「平和・文化・市民
生活」の基本施策2の1)に、減災としても無電柱化は考えている。これは六長からの継
続で、むしろ進展したい。

ただ、無電柱化はすごく時間がかかるという現実問題もある。特に武蔵野市は狭くて、

なかなか工事が進まないし、予算も非常にかかるので、厳しいところはあるが、我々としては、景観だけでなく、減災も含めて、無電柱化の政策を考えている。ただし、足りない部分がたくさんあると思うので、ぜひ叱咤激励いただきたい。

【委員長】 今から2回目の方にまとめて意見を言っていて、まとめて答える形にしたい。

【エコ re ゴート運営協議会】 今日、前に座っておられる委員は、皆さん、武蔵野市民ということでまず安心した。しかし、担当職員の方たちが、どれほど武蔵野市民なのか、不安だ。

先ほどから協働とか連携とか、縦軸・横軸という言葉が飛び交っている。施策としては、計画書の中には交差したところが計画の案として出てくる。でも、そこをつなぐところがないから、問題を指摘している。市民がわかるような書きぶりをお願いしたい。

震災時に、エコ re ゴートにおりをつけて、迷子になった犬を置けとか、あるいは今入っている何とか組織の倉庫を置けとか、公共施設の使い方として、そういうことが本当にいいのか。そのあり方もきちんと検討していただきたい。

学校ではグリーンカーテンだけだが、地域では緑のことを非常にたくさんの方がやっている。それがつながっているというデータが何も上がってない。緑のカーテンとかまちの街路樹がどういうふうに温暖化低減に貢献するかというデータを、クリーンセンターを建てるときからお願いしていたが、そういうデータがない。科学的根拠に基づいて執筆をしていただければありがたい。

【武蔵野の森を育てる会】 独歩の森はナラ枯れしたので、結局、伐採した。昔は、持ち主の方が、適当な大きさになったときに、自分たちで切っていた。今回は 80 年もたっているのに、大き過ぎて、プロの手でしかできなかった。市は結構大変な費用をかけて切ることになった。

定期更新が非常に大事だ。またナラ枯れになるまで大きく育てて、そのとき切ればいいというのではなくて、昔のように人工林としての管理を今度は市民の手でやる。あまり大きくなると、自分で切れないけど、ある程度のサイズまでだったら、自分たちでできる。場合によっては、小・中学生も手伝える。10 歳の子どもも、10 年たつともう成人だから、子どものときに自分たちが手がけることもやれば、大きくなったときに、ふるさと意識と

いうか、地元を大切に作る気持ちも育てることができる、非常に貴重な体験になる。定期更新をちゃんとやれるように願っている。

【ジモッピーネット】 武蔵野市は、既に緑の基本計画の中で、24 ページから 25 ページにかけて、生物多様性から歴史の緑、そして景観を含め、量質ともに豊かな武蔵野市の緑を6つ挙げている。これが武蔵野市が考えている今の緑の質と捉えていいと思う。

今の六期長期計画では、90 ページ「緑の保全・創出・利活用」というところに出てくる。今回の討議要綱では、緑のところでは消えていて、そのかわりに景観のところに出てくるので、市民から見ると、緑の質とは景観なのかと誤解されやすい。最終的には調整計画で質を論じるのであれば、まずは6分類をきちんと押さえ、景観もその中の一環として重要だとしていただけるとありがたい。

質問は、六期長期計画の 91 ページに、自然と歴史を重視した形で書き込んでいただいているので、これはすばらしいと思う。今の討議要綱になくても、調整計画では少なくともここは担保されると思って大丈夫なのか。さらによくするための意見を出せば、さらによくしていただく可能性があるという捉え方で大丈夫か。

【委員長】 議論の進め方について。我々は六長の調整としてまず討議要綱をまとめているが、基本のところ、さらに充実させるべきところがあれば、ぜひ提案等いただきたい。全てを受けるとは申せないが、提案いただければ、我々としてはちゃんと検討するので、そのことを踏まえてのものとなる。書いてないものは、基本的には踏襲していると考えていただいて差し支えない。そのうえで、先ほどの緑の質に関して、景観分野と緑分野の整理という形も含めて考えたい。

【副委員長】 ご意見にあった、行政の人が市民でない、これはなかなか厳しい問題があって、採用時にそれなりの施策は打つべきかもしれないが、今のところはなかなか難しい。

【エコ re ゴート運営協議会】 採用そのものを言っているのではなく、施策を考えたときに、武蔵野市が積み上げてきたものを肌で感じながら、それを施策に生かしていくことが大事だと思っている。市の中のネットワークだけで施策を市民に押しつけることはやめてほしいということを裏に考えて発言している。

土地が高いので、武蔵野市に居住するというところは難しいところもある。だからといって、お金持ちが住めばいいだけではなく、福祉的な視点とか、そういうものが連動しなく

てはいけない課題だ。単なるプロブレムを対象とするのではなく、イシューとしての課題にきちんと対応する書きぶりをお願いしたい。

【副委員長】 要は、行政の人が市民という問題ではなく、行政の人がちゃんとそういうことに関わっていくように読み取れるように書くという理解でいいのか。

【エコ re ゴート運営協議会】 私は縦割りのことを申し上げている。今、課題は、いろんなところにつながっている。連携とか協働という美しい言葉を並べられているけれども、実施にあたってはそうではない。東京都から政策だけが末端におりてきて、公共施設の使い方にも不公平が生じている。

先ほど、ワクチンの例をお話したが、震災のときに、東京都の条例で決まって、武蔵野市の新しくできた公共施設を倉庫がわりに使おうとすることがストレートにおりてくる。そして、それに対応する新しい施設は、嘱託職員が多い。そのスタッフの啓発とか勉強とか、そういったところもきちんとしてほしい。

【副委員長】 今の話は、エコ re ゴートとか緑・環境分野だけの話でなく、行財政分野でもそういったことを改善すべく、行政の方が積極的に現場に行って、市民とかスタッフと対話しながら行うというところをしっかりと書き込んでいる。

むさしのエコ re ゴートは、いろんな事由でほかのところに使われたこともあったのかもしれないが、基本的には環境啓発施設の拠点で、それはこの討議要綱にも書き込まれている。さらに、環境活動団体が市民とか団体と交流する場、多様なネットワークを構築する場というのは明記されているので、そこは緩むことがない。

雑木林の定期更新に関するご意見は、人工林を市民の手で管理していくというのは、まさにやっていくことだが、六長は個別のことを全部書くものではなく、趣旨を書くのが基本なので、どこまで具体的に書くか、持ち帰らせていただきたい。

【D委員】 市職員の市内居住促進については、第六期長期計画のときはかなり議論したが、結果的に織り込むことはできなかった。市職員には居住の自由権が憲法によって保障されていることも、理由の一つであった。

ただ一方で、防災という観点においては、何かあったときに、市役所に自宅が近い人のほうが市役所の業務立ち上げがやりやすくなるという観点での一定の施策がその後展開されていると聞いている。

市職員が、市民の現場の話を共有できているのかできてないのかという課題に関しては、討議要綱の43ページに3)「様々な主体との連携・協働の推進」という項目を立てて、そ

の2番目のパラグラフに「市職員が地域に出向く機会を創出し、職員の対話力・調整力の向上を図り、市民との信頼関係及び相互理解を深めることで、地域との連携・協働を推進する」と書き込んでいる。市職員が市役所の中ではなくて、現場に出向いて、皆さんといろいろとお話をする中で実態を把握して、課題解決能力、コミュニケーションの力も磨き上げていかななくてはならないと。

さらに2点お伝えしたい。1点目は、これをやるには市民の方々にもご協力いただく必要がある。市職員が出てきたときに、教えるのは面倒くさいとか、たまたまコミュニケーション能力に慣れてない方が上から目線で物を言うことに対して、怒りを持つのは結構だが、ちゃんと対話をして、市職員を育てていくことも、私たち市民に求められるということだ。

2点目は、この提案は、今回、市職員から上がってきた。市職員の中にもこういう高い問題意識を持って、自分たちはこういうふう現場に出ていきたい、あえて自分たちで厳しいものもやっていきたいという気持ちがあることをご理解いただきたい。

最後にもう一つ付け加えると、武蔵野市役所の職員の残業時間は物すごい。なので、そういう方たちにやってもらうためには、行政のサービスをいかに効率化していくのか。デジタルを使っていくとか、市民の有識者の方に有償サービスとして一部業務を請け負ってもらおうとか。市職員の働き方改革と両輪の軸で回していくことで、より市民との距離が近くなり、いいものに仕上がっていくと考えている。

【委員長】 職員みずからもかなり意識的に考えて、やれることはやろうという提案も我々は受けとめながらやっているところをご理解いただくと、市の職員に対する見方も変わるとも思うので、よろしく願いしたい。

事務局が、意見交換会終了後の追加意見の提出方法を説明し、関係団体意見交換会を閉じた。

以 上